

2021 年度 年次報告書

(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)



瀬戸内オリーブ基金
SETOUCHI OLIVE FOUNDATION

特定非営利活動法人 瀬戸内オリーブ基金

理事長挨拶

平素は当基金の活動にご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本報告書は、当基金が2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）に行った活動と
りまとめ、みなさまからお預かりした寄付金をどのような活動に使わせていただいたかを報告するもので
す。

当基金は、瀬戸内の自然、つまり「ゆたかな島と海」を次の世代に引き継ぐことを目的として、瀬戸内
海エリアで行われる環境保全活動に資金を助成するとともに、自らも環境課題に取り組んでいます。

2021年度は、前年に引き続きコロナ禍により、様々な点で活動が制約されましたが、内部管理体制
を強化し、次のステップに向かう準備を整えました。

引き続き当基金への変わらぬご支援をお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 瀬戸内オリーブ基金
理事長 岩城裕

瀬戸内オリーブ基金とは

瀬戸内オリーブ基金は、当時日本最大規模といわれた有害産業廃棄物の不法投棄事件「豊島事件」をきっかけに、建築家の安藤忠雄氏と、豊島事件弁護団長の中坊公平氏が呼びかけ人となって設立された NPO 法人です。2000年、公害調停成立を機に設立されて以来、瀬戸内海エリアの美しい自然環境を守り、再生することを目的に活動をしています。瀬戸内海エリアの環境保全活動に対して資金の助成を行うほか、自らの取組みとして「ゆたかなふるさと100年プロジェクト」、「ゆたかな海プロジェクト」、オリーブ栽培などを行っています。



Our Mission

ミッション

次の世代へ美しいふるさとを引き継ぐ

- 1 瀬戸内海エリアの環境保全と再生に取り組む
- 2 環境をまもる意識を育み、自然とともに生きてきた人類の原点を見直す
- 3 豊島事件の意義と教訓を伝える



Our Vision

ビジョン

人と自然が共存する持続可能な社会を目指す

大量生産・大量消費・大量廃棄社会を循環型社会に転換する

2021 年度は瀬戸内海同時多発ごみ拾い「スポ GOMI」の開催や、豊島事件の継承に力を入れて取り組みました。また、コロナの影響が続く中でも、少しずつボランティア活動などのイベントを再開しています。

第 1 部 助成事業

瀬戸内海エリアで環境保全活動を行っている団体・個人に対し、活動資金を助成しています。植樹活動や環境教育などに助成する「植樹・環境教育助成」に加え、これから始めるユニークな環境保護活動などに対し、原則 3 年間支援する「スタートアップ助成」があります。

オリーブ基金では、適正な助成を実現するため、外部の有識者で構成する助成審査委員会を設置し、その検討結果をふまえて、オリーブ基金運営委員会が助成決定をしています。

1. 採択した団体とプロジェクト及び助成額

2021 年度は植樹・環境教育分野への助成として 5 件を採択し、助成決定額は 3,504 千円となりました。助成内容は、海ごみ関連の助成申請が増えています。

府県名	団体名／プロジェクト名	主な活動の内容	助成額
岡山	NPO 法人グリーンパートナーおかやま／底曳網体験学習「海底探検隊 2021」	海ごみの発生抑制を目的として、下津井で底引き網船による「海底ごみ回収体験」を行ったうえで、講演とワークショップを行う。	¥467,500
岡山	NPO 法人グリーンパートナーおかやま／与島・櫃石島クリーン大作戦	与島・櫃石島において、中高生ボランティアを主体に海岸の海ごみを回収。	¥700,000
兵庫	一般社団法人淡路水交会／漁業者による森づくり	ウバメガシなどの植樹を行う「森づくり事業」を進めるとともに、アオリイカ産卵床として活用を図る「海づくり事業」の展開。	¥780,000
香川	豊島棚田くらぶ／唐櫃岡の棚田再生・保全プロジェクト	豊島の棚田の耕作放棄地の再生。小麦・そば・大豆・蓮根の栽培。	¥699,800
大分	清川まちづくり協議会／御嶽山桜ロード整備事業	御嶽桜ロードでの桜の植樹。	¥856,900

2. 助成事例紹介

団 体 名	清川まちづくり協議会
プロジェクト名	御嶽山桜ロード整備事業
活 動 地	大分県
助 成 採 択 年 度	2021 年度
プロジェクトの概要	御嶽山桜ロードは 50 年前、地元の方々によって桜が植えられ、長い期間県を代表する桜の名所としてにぎわってきたが、当時植えられたソメイヨシノに老木や病枝が目立つようになってきた。ソメイヨシノを整備して、御嶽山桜ロードを、大分県を代表する桜や紅葉の名所として復活させ、人々の憩いと安らぎの「里」を創造しようとする事業。

大分県豊後大野市は自然豊かな大地と原生的な山々、清流が日本ジオパークやユネスコエコパークに認定されています。その一角にある桜の名所「御嶽山桜ロード」は、50 年前地元の方々によって桜が植えられ、長い期間県を代表する桜の名所として賑わってきました。しかし当時植えられたソメイヨシノの寿命もあり、近年老木や病枝が目立つようになってきていました。その対策に瀬戸内オーリーブ基金の助成で、平成 27 年度に 100 本と 29 年度に 100 本の桜を植栽しました。平成 30 年度には当地で開催された国民文化祭を記念し、桜ロードの沿線にある神楽の里能場公園に「紅葉の森」の造成を行い、子どもたちを中心に町民総参加のもと広葉樹 330 本の植栽を行いました。

御嶽山桜ロードの再生事業が 5 キロに亘り、これまで当基金や市の助成を併用して 6 年間御嶽山一帯の景観形成を行ってきました。しかし完成まで一部沿線の整備が残り、今回当基金の事業により次世代に「ふるさとの宝」として、また県を代表する桜や紅葉の名所として復活を図るため、桜やシダレザクラ 60 本の植栽を行いました。今回の事業に当たって町民向け「まちづくり通信」や登録ボランティアへの案内によりコロナ禍の中、事前作業なども含め延べ 200 人の参加があり、町民の悲願であった「御嶽山桜ロード～未来へつなぐ道～」の完成を見ることができました。今年度、公益財団法人日本さくらの会より、清川まちづくり協議会に「さくら功労者」の授与あり、また「おおいた脱炭素杯 2020」では豊かな自然を生かした持続可能なまちづくりが評価され、審査員特別賞を授与されました。



第2部 直轄事業

1 2021年度ゆたかな海プロジェクト（瀬戸内海の海洋プラスチックごみを減らす活動）

オリーブ基金では、2009年度から高松市の4つの漁協（高松市瀬戸内漁協・香西漁協・女木島漁協・男木島漁協）のご協力を得て、海底に大量に沈んでいる海ごみの問題に取り組んできました。近年、海洋プラスチックごみの問題がますます深刻化しています。世界中で海に流れ込むプラスチックは年間800万トンとの試算があり、2050年にはプラスチックごみの重量が魚の重量を超えとも言われています。プラスチックごみは細かく砕かれてマイクロプラスチックとなり、生物や環境を汚染します。

海洋プラスチックごみ問題は、豊島の産業廃棄物と同じく大量廃棄の問題であり、私たちの便利で快適な生活が持続可能なのかが問われています。「豊かな島と海を次の世代に」つないでいくために、オリーブ基金は「ゆたかな海プロジェクト」を直轄事業として立ち上げ、展開しています。

「ゆたかな海プロジェクト」は、市民のみなさまとともに海洋プラスチックごみの発生を抑制し、発生した海洋プラスチックごみを回収する活動です。海洋プラスチックごみの発生を抑制するためには、ペットボトル飲料などプラスチック製品をなるべく使わないようにすること、街中のプラスチックごみが海に流れ込むことを防ぐこと（街中のごみを拾うこと）などが必要です。海ごみが発生する仕組みについても正しい理解が求められています。発生してしまった海洋プラスチックごみは、マイクロプラスチックになる前に回収しなければなりません。この活動は日本財団の助成を受けて活動をしています。

1-1 瀬戸内うみごみフォーラムの開催

瀬戸内海エリアにおいて海洋プラスチックごみ問題に取り組むリーダーを育成するとともに、幅広い市民の参加を求め、岡山市のNPO法人グリーンパートナーおかやまと共催で開催しました。

開催日：2021年11月14日（日）

参加費：無料

場 所：両備 杜の街グレース会議室（岡山市北区下石井2-10-7）

参加人数：146人（NPO 30人、議員・行政 22人、学校等 34人、一般 56人、マスコミ 4人）

内 容：

△講演1 「森里川海のつながりを取り戻そう」地球環境危機へのヒント

早稲田大学法学部教授 森本英香氏

△事例発表1 「きらりがいっぱい！守れ寄島の海と人」

岡山県浅口市立寄島小学校

△事例発表2 「ふるさと新庄学の取組」

岡山県新庄村立新庄小中学校

△事例発表3 「広島県の海洋プラスチックごみ対策」

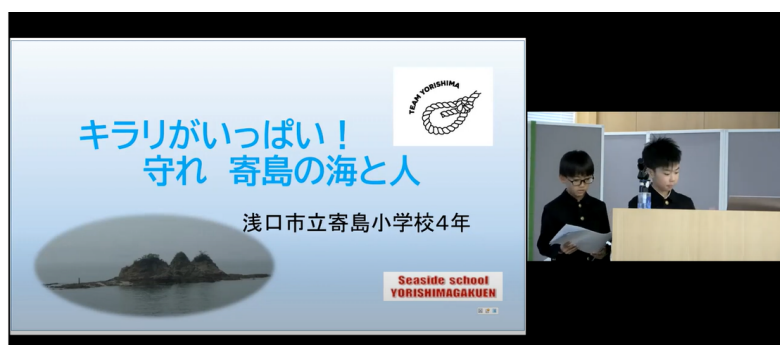
広島県環境県民局環境保全課

△講演2 海を母とする「私たちの生きもの」の中の私

J T生命誌研究館名誉館長 中村桂子氏

岡山県浅口市立寄島小学校では「ふるさと学習」で取り組んだ海の環境活動を通して海ごみを集めることから取組みをはじめ、実際にマイクロプラスチックの抽出体験したことを、岡山県新庄村立新庄小中学校では「ふるさと新庄学」の一環として、旭川の川上に位置する風光明媚な新庄村と海ごみの関係性を調

べるため、実際に旭川の河口での清掃体験から海ごみの現状について、広島県環境県民局環境保全課からは瀬戸内海の家ごみの状況について、それぞれ報告いただきました。



1-2 スポ GOMI 開催報告

スポ GOMI とは、一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブが「スポーツ」と「社会奉仕活動」の融合による「スポーツで、街をキレイにする！」活動です。このスポ GOMI は、企業や団体に取り組む従来型のごみ拾いに「スポーツ」の要素を加え、今までの社会奉仕活動を「競技」へと変換させた日本発祥の全く新しい取り組みです。

オリーブ基金では 2020 年度から継続して、海ごみリーダー育成講習会を開催しています。2021 年度も 8 月 29 日（日）にリーダー育成講習会をオンラインで開催し、5 団体 13 人にご参加いただきました。一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ馬見塚代表から、スポ GOMI の手法や幅広い市民の巻き込み方などの講習を受けていただきました。今年度から香川県高松市の海守さぬき会の協力をいただき、4 カ所（コロナウイルス感染拡大による中止も含む）においてスポ GOMI を開催し、参加者 164 人に海ごみに対して関心を持ってもらう機会を提供しました。

■各地におけるスポごみの開催状況

開催日	大会名	開催場所	開催団体	動員人数
10 月 31 日（日）	スポ GOMI in 豊島	香川県小豆郡土庄町豊島家浦	瀬戸内オリーブ基金	30 人
11 月 25 日（土）	スポ GOMI in 唐子浜	愛媛県今治市唐子浜	ビーチクリーンしまなみ	55 人
12 月 19 日（日）	スポ GOMI in 高松第一	香川件高松市松島地区	高松市松島地区コミュニティ協議会 スポごみ実行委員会	79 人
3 月 20 日（日）	スポ GOMI in 男木島	香川件高松市男木島	高松市ボーイスカウト	中止

この他に、9 月 20 日（月・祝）に開催された日本財団 海と日本 PROJECT スポ GOMI 全国大会に四国エリアからリモートで参加しました。

1-3 スポ GOMI 事例紹介

■【スポーツごみ拾い in 豊島家浦】

日 時：11月 21 日（日） 8：45～10：45（競技時間 1 時間）

場 所：香川県小豆郡土庄町豊島家浦（豊島交流センター周辺）

参加者：6 チーム 30 人 *スタッフ 13 人

拾ったごみの量：52.185 kg

当日は小雨決行となりましたが、たくさんの豊島の子どもが参加してくれました。大人もみんなで力を合わせて楽しく拾い集めました。参加した子どもたちから、豊島の他の地域でもやってほしいと要望がありました。



■【スポーツごみ拾い in 唐子浜】

日 時：11月 21 日（日） 9:00～12：00（競技時間 1 時間）

場 所：愛媛県今治市・唐子浜

参加者：14 団体 55 人

拾ったごみの量：248.775kg

清掃ボランティア後だったため、目立ったごみは少なかったが、細かなごみを子どもも大人もみんなで力を合わせて楽しく拾い集めました。昨年度も参加した地元の短期大学留学生チームが優勝し、大いに盛り上がりました。



2. 豊島・ゆたかなふるさと 100 年プロジェクト（国立公園原状回復事業）

豊島の産業廃棄物不法投棄によって失われた自然を再生し、次世代に引き継ぐ事業です。その現場は瀬戸内海国立公園の中にありましたが、緑豊かな白砂青松の地であった海辺は長期間にわたり海浜や山の土砂が採取・掘削され、表土が失われています。それに加え、不法投棄によって植生がかく乱されており、国立公園とは名ばかりの状態になっています。オリーブ基金では、現在多くの住民や企業ボランティアの協力を得て、この場所を国立公園にふさわしい状態に回復する取り組みを続けており、今後長い時間をかけて自然海岸、自然の植生に変えていくため、2021 年度から「豊島・ゆたかなふるさと 100 年プロジェクト」として、リスタートしました。この活動は、トヨタ自動車株式会社のトヨタ環境活動助成プログラムの助成を受けて活動をしています。

2-1 植生回復の状況

岡山大学大学院環境生命科学研究科教授 嶋 一徹氏の助言と指導をいただきながら、不法投棄現場における植生の多様性の取り戻し、外来植物を除去する活動を始めて 6 年が経ちました。人の手による「自然を造成する」のではなく、自然がゆっくり回復できるようにすることを目的に、植生遷移の流れに沿って、多種多様な種子を含んだ表土を撒くことで、風や鳥によって運ばれた種子が自然に発芽し定着できる環境の整備を進めています。

2-2 企業ボランティアとの取り組み

新型コロナウイルス禍でも十分に感染対策を行なった上で、NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合様がボランティア活動に参加されました。主な活動として、オリーブの収穫や海岸清掃、豊島の荒廃地を整備後にオリーブの植樹などを行いました。

2 月 28 日には、5 年目に入った岡山大学嶋研究室、豊島小中学校とのツツジの育苗・植栽活動に、初めて NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合様が参加しました。5 年前に植えたツツジの中には、1 メートル以上に成長したものもあり、大変地道な活動ですが、徐々に成果が出はじめています。

日程	参加人数	実施作業
6 / 28 - 29	19 名	柚の浜荒廃地の整備
10 / 28 - 29	24 名	オリーブ収穫・選果作業
2 / 28 - 3 / 1	6 名	オリーブ植樹場所の整地作業 豊島小中学校とのツツジ植栽
3 / 28 - 29	17 名	柚の浜・オリーブ植樹、海岸清掃



3. 豊島事件を語り継ぐ活動

日本が大量消費型社会から循環型社会へと大きく転換していくきっかけとなった、豊島事件の意義と教訓を次の世代に継承し、このような事件を二度と起こさないようにするために、オリーブ基金は豊島事件を語り継ぐ活動に取り組んでいます。その拠点である「豊島心の資料館」の保全・整備、語り継ぎの継承のため2020年度から地球環境基金の助成を受けて、豊島事件のアーカイブ作成や資料の整理と更新などを行っています。

3-1 公害資料館ネットワークとの連携

日本最大規模の不法投棄といわれた香川県豊島の有害産業廃棄物不法投棄事件（豊島事件）を伝えて行くため、産廃現場に残った建物を有効活用し「豊島こころの資料館」として見学者に公開しています。2021年度から「公害の経験から得た知恵を持続可能な社会の実現」をめざす公害資料館ネットワークに加入したことから、各地で実践されてきた「公害を伝える」取り組みの共有などを共有することで、豊島事件の継承活動を進めて行きます。



3-2 豊島こころの資料館の内部リニューアル

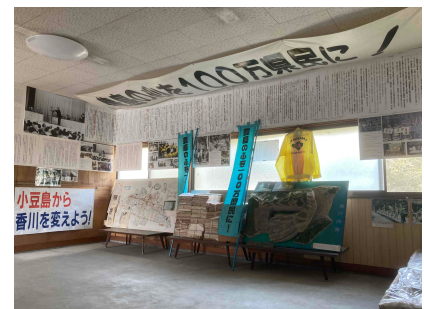
不法投棄現場にある「豊島のこころ資料館」は、有害廃棄物を持ち込んだ事業者が現場事務所として使用していた建物を有効活用し、豊島住民が自らの手で作った資料館です。資料館の中には産廃（シュレッダーダスト）の剥ぎ取り壁面が展示されているほか、数十年にわたる豊島事件に関する資料が展示されています。2021年度は地球環境基金の助成を受け、内部の改修に加え、産廃現場の土壌サンプルケースの更新や重要な資料の保存に取り組みしました。



BEFORE



AFTER



3-3 豊島での見学者増加と受け入れ体制の拡充

- ユニクロスタディツアー実施（豊島事件を含めた環境保全についての学び）
2021年11月13日 メディア6社が取材〔うち4社報道、朝日新聞社説に掲載（11月24日）〕
- 旅行会社への資料館見学の働きかけ → 2022年4月20日に高校の修学旅行の受け入れを予定

4. 豊島のオリーブ

オリーブ基金では、2014 年度から住民から委託をされた、約 1 ヘクタールのオリーブ園管理を行い、住民とともにオリーブ木を育成・栽培しており、搾油したオリーブオイルから食用オリーブオイル・洗顔石鹸・美容オイルなどを製造・販売しています。

2021 年の収穫量は 2,297kg、搾油量は 195.2kg となりました。収穫期の 10 月上旬には 30 度を超す夏日が続いたため、高温を好まない果実の保管や搾油が大変難しい年になりましたが、今年も香川県の定めるオリーブオイル品質評価基準である「プレミアム」の評価を受けることができました。

瀬戸内芸術祭の開催を記念して、2021 年に生産された豊島産オリーブオイルを使ったシャンプーバー（販売価格：1,200 円）の取り扱いをスタートしました。泡立ちが良いことに加え、ボディソープとしても使うことができます。香りはレモンとオレンジの 2 種類からお選びいただけます。



第 3 部 運営報告

1. 決算

■事業会計収支に関する事項

当期の経常収益は 44,649 千円、経常費用は 26,599 千円。経常費用の内訳は特定非営利活動にかかる事業の事業費が 14,799 千円、管理費が 11,800 千円でした。当期経常増減額は 18,066 千円増、次期繰越正味財産額は 68,412 千円です。

■ご寄付と事業収益の状況

寄付金収入は 36,133 千円、受取助成金は 4,743 千円、事業収益は 3,763 千円でした。

2. 理事会・総会・運営委員会

2-1 理事会・総会開催状況

[2021 年度第 1 回理事会]

日時：2021 年 6 月 19 日

場所：Zoom ミーティング

主な内容：2020 年度事業報告・収支報告審議、2021 年度事業計画・予算審議

[2021 年度総会]

日時：2021 年 6 月 19 日

場所：Zoom ミーティング

主な内容：2020 年度事業報告・収支報告審議、2021 年度事業計画・予算審議

2-2 運営委員会開催状況

出席者：理事、監事、運営委員、企画委員

場所：梅田新道法律事務所

※第 3、4、5 回は新型コロナウイルスの影響からオンライン会議ツールを使用したオンライン会議による運営委員会の開催

開催回	開催日	主な審議議題
第 1 回	2021 年 5 月 1 日	今年度計画及び予算／就業規則の改定（リモートワーク規程）／会計監査報告／ボランティア報告・他
第 2 回	2021 年 5 月 22 日	今年度計画及び予算／年次報告書進捗報告／サポート企業との連携方法／ボランティア報告・他

第3回	2021年6月19日	海ごみ関連の事業計画／職員採用関連／バイオトイレ設置／協力企業との事業報告・他
第4回	2021年7月31日	就業規則の改正／事務局員募集／東京出張報告／海ごみ事業報告・他
第5回	2021年8月28日	就業規則の改訂／日本財団採択事業／助成事業公募の準備状況／広報活動／オリーブ栽培販売状況報告・他
第6回	2021年9月25日	サポーター会員管理方法／倉庫の賃貸借契約／フォーラムの開催／2021年度助成事業／オリーブ栽培報告・他
第7回	2021年10月30日	サポーター会員制度／名簿の整理／オリジナルTシャツ制作／ボランティア報告・他
第8回	2021年11月27日	寄付増額に向けた取組み／こころの資料館活用方法／オリーブオイルの活用方法／事務局採用・他
第9回	2021年12月28日	助成募集／確定申告と年末調整／今年度事業実施状況報告／確定申告と年末調整・他
第10回	2022年1月29日	サポーター会員の申込み対応／2022年度予算／島津製作所との取り組み／瀬戸内芸術祭での取り組み・他
第11回	2022年2月26日	業務進捗管理／助成決定団体報告／事務局作業分担／オリーブ新商品企画・他
第12回	2022年3月19日	給料王・販売王の導入／事務局携帯の導入／次年度業務分担／ニュースレター発行／寄付金状況・他

3. 運営委員・事務局紹介

3-1 運営委員紹介

役名	氏名	所属
理事（理事長）	岩城 裕	弁護士（大阪弁護士会所属）
理事（副理事長）	青木 智弘	ふれあい臨床検査センター（神奈川県茅ヶ崎市）
理事	安藤 忠雄	建築家（安藤忠雄建築研究所）
理事	中地 重晴	熊本学園大学社会福祉学部教授
監事	新田 幸弘	株式会社ファーストリテイリング
監事	藤田 恵介	公認会計士・税理士
運営委員	十河 完也	安藤忠雄建築研究所
運営委員	シェルバ 英子	株式会社ファーストリテイリング
運営委員	兼平 裕子	前愛媛大学法文学部教授・元税理士

3-2 事務局挨拶

新任のご挨拶 西尾あづさ

このたびご縁をいただき 2022 年 4 月に事務局にまいりました。前職は環境計量事業所での質分析業でしたので付き合う相手は機械でしたが、現在は豊島の個性的な人々に囲まれての勤務をしています。とても新鮮な毎日です。

皆様に教えを請うことや、不慣れな部分もたくさんありますが、お力添えをいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

復帰のご挨拶 清水萌

昨年 6 月から出産と育児のため、お休みしていましたが、今年 5 月より復帰いたしました。この 1 年間で、今まで以上に「瀬戸内海の美しい自然を次の世代に引き継ぎたい」という気持ちが強くなっています。現在は岡山から週 2 回豊島に通い、その他の日はリモートで勤務しています。また皆様と活動できることを楽しみにしています。今後とも、よろしくお願いいたします。

退任のお知らせ

山元秀穂は 2022 年 5 月末で退職いたしました。

4. ご寄付・ご支援のお願い

オリーブ基金の活動はみなさまからのご寄付・ご支援により運営されています。お寄せいただいたご支援は瀬戸内海の美しい自然を次の世代に引き継ぐために、責任をもって瀬戸内海エリアの環境保全に取り組む団体に支援するなど、未来につないでいく活動に活用します。

ご寄付、募金箱の設置、オリーブ製品のご購入などどのような形でも結構ですので、オリーブ基金の活動を支えていただければ幸甚に存じます。

個人サポーターのご案内

個人サポーター会員は、5,000 円／年を1口として、瀬戸内オリーブ基金を継続的にご支援いただくプログラムです。美しい自然環境を守り、再生する活動は地道で息の長い活動になります。サポーター会費は、銀行振替、またはクレジットカードでお支払いいただけます。

なお、昨年から、当基金のホームページに会員規約と会員申込書を掲載し、会員になる手続きを紹介しています。

法人サポーターのご案内

法人サポーターは、金銭面だけでなく、支援品や協賛企画によって瀬戸内オリーブ基金の活動をご支援いただくプログラムです。募金箱の設置や商品のご寄付等、様々な支援方法がございます。お気軽にお問い合わせください。

なお、昨年から、当基金のホームページに会員規約と会員申込書を掲載し、会員になる手続きを紹介しています。

お振込みによるご寄付

振込先 ゆうちょ 銀行一六九（イチロクキュウ）店
当座 0068797 特定非営利活動法人瀬戸内オリーブ基金

募金箱へのご寄付

現在、全国のユニクロとジーユーの1200店舗をはじめ、廃車王取扱店など多数の場所にオリーブ基金の募金箱を設置していただいております。広く多数の方にご支援いただくために、募金箱を設置していただける企業や店舗を募集しています。

お問合せ先

特定非営利活動法人瀬戸内オリーブ基金(認定)

761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦 3837-4

電話：0879-68-2911E-mail：info@olive-foundation.org

<http://www.olive-foundation.org/>

